



にこにこニュース

〒870-0943 大分県大分市片島 83-7

<https://www.oita-kodomo.jp/>

(代表) TEL097-567-0050



溶連菌感染症



溶連菌という細菌がのどに感染して、のどの痛み、発熱が起こります。舌がイチゴのようになったり、体や手足にかゆみのある発疹が出たり、お腹が痛くなったり、吐いたりすることもあります。

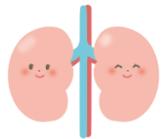
うつるため園や学校を1-2日休まなくてはならない病気です。何度もかかることがあります。

<治療>

のどの検査で溶連菌がいることがはっきりしたら、**抗生剤を10日間飲みます。**

多くは1-2日で熱が下がり、のどの痛みも軽くなります。発疹は3-4日で消えていきますが、その後に皮がむけていくこともあります。

しかし、途中で薬をやめてしまうと再発することがあります。**また、薬をきちんと飲まないとりウマチ熱や腎炎をおこすことがあります。指示通りに最後まで飲むことが大切です。**



<合併症>

- ① リウマチ熱：のどの溶連菌感染後2-3週間で、急な高熱、関節痛、心臓の合併症などをおこす。
- ② 腎炎：のどの溶連菌感染後1-2週間、皮膚の溶連菌感染後3-6週間で、むくみや血尿などをおこす。

<家庭で気を付けること>

- ① うつる：潜伏期は2-5日です。**家族に同じような症状がある時は受診しましょう。**
- ② 食べ物：のどが痛いので、食欲がないのはしかたありません。熱いもの、すっぱいもの、塩辛いもの、かたいものなどを避け、冷たくてのどごしのよいものを食べましょう。
- ③ 入浴：高熱がなく元気があれば、お風呂に入ってもよいです。

<こんな時はもう一度診察を>

- ① 2日以上たっても熱が下がらないとき。
- ② のどの痛みが強く、水分をあまりとらず、ぐったりしているとき。
- ③ 1-6週間後に、元気がない、おしっこが少ない、顔（目の周り）がむくんでいる、血尿がある（赤色、褐色、コーラ色など）などの症状が出てきたときは腎炎の可能性ががあります。**尿検査が必要になりますので、必ず受診してください。**



<保育園・学校>

しっかり抗生剤を飲んでいれば、熱が下がってから24時間くらいで他人へ感染させる力がほぼなくなります。まる1日熱がなく、食事を普通に食べることができたら、その翌日から登園・登校してよいです。

食品による窒息に注意！！

ちょっと待って！！その食べ物、危険ですよ！

窒息・誤嚥事故防止のために
注意すること！



厚生労働省の人口動態統計の調査票情報(平成26年～令和元年)を基に、消費者庁で独自に分析を行ったところ、**食品を誤嚥して窒息**したことにより、14歳以下の子どもが**80名死亡**していました。そのうち**5歳以下は73名**でした。奥歯が生えそろわず、かむ力や飲み込む力の十分ではない子どもは、誤嚥・窒息しやすいです！

食品の形態・特性	食材	予防・対策
丸いもの つるつとしたもの	ミニトマト、ブドウ、さくらんぼ、うずらの卵、球形のチーズ、カップゼリー、ソーセージ、こんにゃく、白玉団子、あめ、ピーナッツ	・1/4カットにして小さくする ・ゼリーは凍らせない ・ソーセージは縦半分に切る ・白玉団子はよくかむ ・あめ、ピーナッツは5歳以上になってから
粘着性が高く 唾液を吸収して 飲み込みづらい	もち、ごはん、パン、焼き芋、カステラ、せんべい	・水分を摂ってのどを潤してから食べる ・一口量を守って詰め込まない。よくかむ。
硬く、または弾力があり、かみ切りにくいもの	エビ、貝類、イカ、リンゴ、水菜、肉類、きのこ類、グミ	・1cm程度に小さく切る ・グミは5歳以上になってから ・一個ずつ口に入れる。
唾液を吸収して 飲み込みづらいもの 噛みちぎりにくいもの	のり、とり挽き肉、ゆで卵、煮魚	・のりは、事前に刻んでおく ・とり挽き肉は片栗粉でとろみをつける ・ゆで卵は細かくし何かと混ぜる

- ① 豆やナッツ類など、硬くてかみ砕く必要のある食品は**5歳以下の子どもには食べさせないで下さい**。咽頭や気管に詰まると窒息しやすく、大変危険です。小さく砕いた場合でも、気管に入り込んでしまうと肺炎や気管支炎になるリスクがあります。
- ② ミニトマトやぶどう等の球状の食品を丸ごと食べさせると窒息するリスクがあります。乳幼児には**4等分**する、調理して**柔らかく**するなどしてよくかんで食べさせましょう。
- ③ 食べているときは、**姿勢を良くし、食べることに集中**させましょう！物を口の中に入れて**走り、笑ったり、泣いたり、声を出したりすると、誤って吸引し、窒息・誤嚥するリスク**があります。

出典・・・消費者庁 HP「消費者への注意喚起 食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！」 <https://www.caa.go.jp>

各診療科と専門外来のご案内

当院は、小児科以外にも子どもの成長や日々の生活の中でケガや病気に対応できるよう、皮膚科、アレルギー科、小児外科があり、その他にも各種専門外来を設けています。
各診療科・専門外来の診察についてのご相談は、近くのスタッフに声をおかけください。
ホームページに1週間ごとの外来診療案内を掲載していますので、そちらもご確認ください。

《診療科》

小児科	皮膚科	アレルギー科	小児外科
月～土曜日：午前 月～金曜日：午後は15:00～18:00	月～金曜日：午前 月・火・金曜日：午後	受診希望の方は お問い合わせ下さい	金曜日：午後
【直接のご来院でも診察可能】	【直接のご来院でも診察可能】	【予約制】	【予約制】
0歳～20歳未満の方を対象に内科一般をみえています。お子様が入院中の保護者の方なども診察しています。	皮膚の病気や傷(やけど・切り傷)などの治療、アレルギー、皮膚炎を中心に診察しています。大人の方へは、美容外来も行っています。	喘息や食物アレルギー、その他アレルギー症状によって日常生活に困りがある方を対象に長期的な診療を行います。	消化器を中心とした外科的疾患の診療を行っています。また膈ヘルニアや肩胛ヘルニアなどの診療も行います。

《専門外来》

OD・夜尿・発達外来	神経外来	循環器外来	腎臓外来	内分泌外来
受診希望の方は お問い合わせ下さい	木曜日：午後	火曜日：午後	水曜日：午後	第2木曜日：午前 第4木曜日：午後
【予約制】	【予約制】	【予約制】	【予約制】	【予約制】
起立性調節障害や夜尿症でお困りの方や、成長や発達に不安をお持ちの方の診察を行っています。心理士による発達検査も行っています。	けいれん(てんかん等)をはじめとする小児神経疾患の診察と、必要に応じて脳波検査を行っています。	健診で指摘を受けた方や、川崎病の治療後の定期健診などを行っています。	尿路感染症をくり返す方や、腎疾患の方の診療を行っています。	低身長をはじめとする内分泌系疾患の方の診療を行っています。